



2018年10月 第16巻第10号

- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

かく語りき—聖人の言葉

「善い行いをすれば、過去の悪い行いの影響は弱められます。瞑想やジャパ、霊的な思いで、過去の罪を中和できます」

…ホーリー・マザー シュリー・サーラダー・デーヴィー

「崇高な思いは祈りである。心からの願いは祈りである。敬虔な希求は祈りである。悔恨に満ちたハートが心の底から漏らすため息は祈りである」

…預言者ザラスシュトラ（ゾロアスター教の開祖）

今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・2018年11月～12月の予定
- ・2018年8月の逗子例会 講話
「アーナンダ（第2部）」
スワミー・メーダサーナンダ
- ・アーユルヴェーダ学会にて講話
- ・ナマステ・インドに出店

2018年11月～12月の予定

- ・11月～12月の生誕日

スワミー・スボダーナンダ
11月20日（火）

スワミー・ヴィッギャーナナンダ
11月22日（木）

スワミー・プレマーナンダ
12月16日（日）

クリスマス・イブ 12月24日（月）

ホーリー・マザー シュリー・サーラ
ダー・デーヴィー 12月28日（金）

- ・11月の協会の行事

11月3日（土） 10:00～12:00
東京・インド大使館例会
講義：『バガヴァッド・ギーター』

場所：インド大使館

お問い合わせ：

<http://www.gita-embassy.com/>お問い合わせ/

または gitaembassy@gmail.com

※入館・受講するには、大使館発行のIDカード(2018年後期分)が必要です。詳細は、協会ウェブサイトのページ左側にあるメニューから「インド大使館ID」をご覧ください。

11月4日(日) 14:00～16:00

逗子午後例会

場所：逗子協会本館

詳細は協会ウェブサイトをご覧ください。

お問い合わせ：benkyo.nvk@gmail.com

11月6日(火)

カーリー・プージャー 19:00～21:30

場所：アネックス

19:00 礼拝・アラーティー・花の礼拝

20:00 火の儀式(護摩)

21:00 夕食(プラサード)

お問い合わせ：協会 046-873-0428

どなたでも参加いただけます。皆様のお越しを心からお待ちしております。

11月11日(日)

熊本サットサンガ

お問い合わせ：梶原 0967-22-3359

詳細は、協会ウェブサイトの「活動」—「招待による各地の講話」をご覧ください。

※熊本訪問に伴い、マハーラージは11月8日～13日に逗子本部を不在にします。

11月17日(土) 10:00～12:00

『ウパニシャド』スタディークラス

講義：『ウパニシャド』

場所：インド大使館

お問い合わせ：

<http://www.gita-embassy.com/>お問い合わせ/

または gitaembassy@gmail.com

※入館・受講するには、大使館発行のIDカード(2018年後期分)が必要です。詳細は、協会ウェブサイトのページの「インド大使館ID」をご覧ください。

11月18日(日) 10:30～16:30

逗子例会

場所：逗子協会本館

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

11月20日(火) 14:00～16:30

『ラーマクリシュナの福音』の勉強会(第2火曜日開催)

場所：逗子協会本館

お問い合わせ・お申し込み：
benkyo.nvk@gmail.com

詳細は、協会ウェブサイトの「Home」の一番下の方をご覧ください。

※前日までに上記の宛先にメールで予約が必要です。

※日程変更や開催中止になることがありますので、協会ウェブサイトで事前

に確認してください。

11月23日（金・祝） 5:00～20:00

アカンダ・ジャパム

お問い合わせ：アカンダ・ジャパム係

vedanta.karmayoga@gmail.com

詳細は、協会ウェブサイトの「Home」
をご覧ください。

11月23日（金・祝）

ホームレス・ナーラーヤナへの奉仕活動

現地でのお食事配布など

お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

または urara5599@gmail.com

11月24日（土） 13:30～17:00

関西地区講話

場所：大阪研修センター

内容：『バガヴァッド・ギーター』と『ウ
パニシャド』を学ぶ

詳細は専用ウェブサイトをご覧ください。
http://vedanta.main.jp/

11月 毎土曜日 10:15～11:45

ハタ・ヨーガ・クラス

場所：逗子協会別館

お問い合わせ：羽成淳（はなり すなお）

080-6702-2308

体験レッスンもできます。

※予定は変更されることもありますの
で、日程は直接お問い合わせください。
専用ウェブサイトをご覧ください。

http://zushi-hatayoga.jimdo.com/

・12月の協会の行事

12月1日（土） 10:00～12:00

東京・インド大使館例会

講義：『バガヴァッド・ギーター』

場所：インド大使館

お問い合わせ：

http://www.gita-embassy.com/お問合
せ/

または gitaembassy@gmail.com

※入館・受講するには、大使館発行の
IDカード（2018年後期分）が必要です。
詳細は、協会ウェブサイトのページ左
側にあるメニューから「インド大使館
ID」をご覧ください。

12月2日（日） 14:00～16:00

逗子午後例会

場所：逗子協会本館

詳細は協会ウェブサイトをご覧ください。

お問い合わせ：benkyo.nvk@gmail.com

12月11日（火） 14:00～16:30

『ラマクリシュナの福音』の勉強会
（第2火曜日開催）

場所：逗子協会本館

お問い合わせ・お申し込み：

benkyo.nvk@gmail.com

詳細は、協会ウェブサイトの「Home」
の一番下の方をご覧ください。

※前日までに上記の宛先にメールで予

約が必要です。

※日程変更や開催中止になることがありますので、協会ウェブサイトで事前に確認してください。

12月16日(日) 10:30~16:30

逗子例会

場所：逗子協会本館

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

12月24日(日) 19:00~21:00

クリスマス礼拝

場所：逗子協会本館

17:30 夕拝

19:00 礼拝、聖書朗読、キャロル、瞑想

19:40 講話

20:40 夕食(プラサード)

どなたでもご参加できますのでお気軽にお越しください。

12月 毎週土曜 毎土曜日 10:15~11:45

ハタ・ヨーガ・クラス

場所：逗子協会別館

お問い合わせ：羽成淳(はなり すなお)
080-6702-2308

体験レッスンもできます。

※予定は変更されることもありますので、日程は直接お問い合わせください。専用ウェブサイトをご覧ください。
<http://zushi-hatayoga.jimdo.com/>

※12月のホームレス・ナーラーヤナへ

の奉仕活動はお休みです

新年は、1月3日(木)17時から炊き出しを行います。参加される方は、持ち物等のお知らせがありますので、下記までご連絡ください。

お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304
または urara5599@gmail.com

2018年8月の逗子例会 講話

「アーナンダ(第2部)」

スワミー・メーダサーナンダ

(9月号に掲載した第1部は、「楽しみ」には3種類(サットワ的楽しみ、ラジャス的楽しみ、タマス的楽しみ)あることと、それぞれの特徴はどのようなものかを説明して終わりました。本号はその続きです。)

私たちの幸せや苦しみのほとんどは想像上のものに過ぎません。想像の中の苦しみはとても大きく思えても、実際の苦しみはそれほどではありません。幸せも同じです。「想像が幸福や苦痛を大きくしている」のを常に忘れないでいれば、苦しいことがあってもうまく対処でき、幸せを望んでいて期待通り良いことが起きなくてもがっかりせずに済みます。心が圧倒されることはなくなり、想像の中の幸福や苦痛に振り回されることもなくなります。心はいつも穏やかな状態を保てるのです。

マハーマーヤーの幻惑



さて、最初の質問に戻りますが、なぜ人は楽しみを求めるのでしょうか。これはマハーマーヤー（大いなる幻惑の力）の技、幻惑のせいです。人はマーヤーの力に惑わされて自分の真の性質を忘れてしまいます。人は神の喜びを経験すると普通の喜びを求めなくなり、結婚して家族を持ちたいとか、子供が欲しいといった世俗の楽しみに興味がなくなってしまいます。神様はそのような状況を望まず、この世という神の遊びの場を楽しむために、人々にこの世界にいてもらいたいのです。

普通、人には、真の至福を求めようという気持ちが自然に湧き起こることはありません。私たちの真の性質は至福ですが、マハーマーヤーが無知のヴェールでこの真実を覆い隠しているのです。例えば、『ラーマクリシュナの福音』の第19章に、シュリー・ラーマクリシュナが信者に次のような話をする場面があります。

信者「なぜ、彼（神のこと）は私たち

を迷わせられるのですか。なぜ、そんなことをしようと思いになるのですか」

師「かりに、たった一度でも人に神の歓（よろこ）びの味を味わわせなさらしたら、人は世間の生活などしようとはしなくなるだろう。創造はそこで終わってしまうだろう。穀物商は米を大きな袋に入れて自分の倉庫にしまっておく。彼は倉庫の近くに、少しばかりのふくらし米を盆に盛って置いておく。これは倉庫にネズミを入れないためである。ネズミはふくらし米をうまいと思うから一晩じゅう少しずつこれをかじり、倉庫の米には手をつけない。だがまあ、考えてごらん。1シェールの米から14シェールのふくらし米ができるのだよ。『女と金』の楽しみより神の喜びのほうがどれほど無限に優れていることか。神の美を思う者にとっては、ランバーとティロタマ（絶妙に美しい踊る二人の天女）の美しささえ、火葬場の灰にしか見えないのだ」

シュリー・ラーマクリシュナによる楽しみ分類

シュリー・ラーマクリシュナは、楽しみについてさらに違う分類をし、次の3種類に分けました。一つ目は「ヴィシヤナーンダ」(Vishayananda)です。「アーナーンダ」(ananda)は「喜び」という意味で、「ヴィシヤヤ」(vishaya)

は「感覚の対象」という意味ですから、ヴィシャヤーナンダは「感覚の喜び、楽しみ」を意味します。感覚の楽しみが生まれるのは、楽しみが普通の物質的な物から得られるときです。

二つ目は「バジャナーナンダ」(Bhajananda)です。これは、聖者の生涯についての本、例えば『ラマクリシュナの福音』や、ブラフマーナンダジーやプレマーナンダジーの回想録、『私たちが見たラマクリシュナ』などを読んだ時に得られる楽しみです。また、信者同士で霊的な話をした時に感じる楽しみです。

『バガヴァッド・ギーター』の第10章9節に、信者が神について話をする喜びが書かれています。「私について語り、互いに啓発し合いながら (bodhyantah parasparam)」「無上の満足と歓喜 (よろこび) を味わっている (Tuṣyanti ca ramanti ca)」。

霊的な話を聞くことでも喜びを得ます。聖句を唱える、ジャパム (神様の名前を繰り返し唱える) を行う、瞑想する、カーリー・プージャーのような礼拝の儀式に参加する、巡礼することなどにも信者は喜びを感じます。これらは全てバジャナーナンダの例です。

三つ目は「ブラフマーナンダ」(Brahmananda)です。ブラフマーナンダとは、悟りの最高の境地を経験した

時の状態を言います。この時の喜び (ananda) は、極めてまれな経験の中でも最もまれなものです。ブラフマーナンダの状態を経験したとしても、それを言葉で表現することはできません。言葉は有限であり、サマーディで経験する喜びは有限を超越したレベル、無限のレベルにあるからです。

サマーディの至福を経験した時の表情はどのようなものでしょうか。クリシュナやお釈迦様、イエス・キリストのようなアヴァター (神の化身) は皆この至福を経験していますが、その時の写真はありません。シュリー・ラマクリシュナだけは、カメラのような道具のある近代に生まれたことから、サマーディの時の写真が残っています。その写真を見るとサマーディがどれほど喜びに満ちた状態であるか、わずかではありますがうかがいすることができます。しかし、経験していませんから想像することしかできません。シュリー・ラマクリシュナは、「鳥が無限の大空を自由に飛んでいる時の喜び」というイメージでサマーディの至福を説明しています。鳥はアートマンすなわち魂の象徴で、無限の大空はブラフマンの象徴です。また、魚 (魂) が大海 (サチダーナンダ) を泳ぐ喜び、という例えもあります。

楽しみを考え、語ろう

仏教哲学には「一切は苦である (dukkham dukkham sarvam dukkam)」という考え方があります。仏教だけでなく他にも、この世には苦しみがたくさんあり、喜びはほんのわずかだとする見方があります。しかしシュリー・ラーマクリシュナは、苦しみの現実ばかりを考えずに神様の喜びについて考えるようにとアドバイスしています。バジャナーナンダ（聖者について本を読んだり話したりするときの喜び）やブラフマーナンダ（悟りの境地の喜び）について考え、神様の喜びに集中するのです。私たちの「楽しみを求める」本性を満足させる方法として、これはポジティブで深いものです。

ホーリー・マザーは、「人は、神を思うことによってのみ真の喜びを経験できる」とよく言っていました。普通の人にとってブラフマーナンダを経験することは難しく、すなわち、真の喜びをすぐには得ることはできません。これが、この言葉の真意です。しかし、真摯に霊的实践を行うことで私たちはブラフマーナンダの喜びをきっと味わうことができます。霊的实践とは、聖典の勉強、神様について話したり聞いたりする、礼拝に参加する、賛歌を歌う、聖句を唱える、ジャパや瞑想、巡礼などですね。これらの実践はどれも難しいことではありません。このような実践をすればするほど、私たちは純粋な真の喜び、楽しみを得ることがで

きるのです。

アーユルヴェーダ学会にて講話

9月15日（土）午後2時30分～4時30分、大田区産業プラザ「PiO」にて日本アーユルヴェーダ学会主催の講話がありました。マハーラージは輪廻転生について述べられ、「長生き」して「よく生きる」だけでなく「意味がある」生き方についてお話しになりました。

学会世話人の鈴木八重子さんのお話では、アーユルヴェーダは間口が広いいため、美容やトゥリドーシャの性格判断や占星術などがアーユルヴェーダと捉えられる風潮があるが、奥行きは深く、一生を通してどういう生き方、考え方をしたらよいか、ということをおぼためこの講座を主催したとのことでした。

マハーラージの講話も全てのインド文化の基礎はインドの哲学である、という話から始まりました。参加者は約30名でした。

（田邊美和子さん寄稿、一部編集）



ナマステ・インドアに出店

9月29日(土)～30日(日)、東京・代々木公園で行われた毎年恒例のインド・フェスティバル「ナマステ・インドア」に、協会は「ガンガーCDブックショップ」として今年も出店しました。

今年は初日が雨で、2日目は大型台風直撃との予報により全店午後1時30分で撤収するように事務局から通達がありました。が、タクルの恩寵で、私たちは初日のセッティングと最後の撤収作業の時は雨に濡れずに済みました。また、2日目の午前中は快晴で、お客様も大勢いらっしゃいました。

2日間で延べ20人のボランティアのご協力により、今年も無事終わることができました。



忘れられない物語

ヒンドゥの伝説

昔、人間は神であったが、自身の神性を大変粗末にしていた。そこで、神々の長ブラフマーは、人間から神の性質を取り上げて決して見つからない場所に隠すことにした。

神性をどこに隠せばいいだろうか。これは大切な問題だったので、ブラフマーは他の神々を集めて知恵を借りよう

と考え、会議を開いた。

「地中深くに埋めてしまおう」神々がこう言うと、ブラフマーは答えた。「それではうまくいかない。人間はきっと地面を掘って見つけてしまう」

「では、一番深い海に沈めてしまおう」神々がこう言うと、ブラフマーは答えた。「そこもダメだ。人間はきっと海にも潜って見つけてしまう」

「それなら、一番高い山の頂に持って行って隠そう」神々がこう言うと、ブラフマーは答えた。「それもダメだ、人間はきっとあらゆる山に登って、神性を取り戻してしまおう」

神々は遂にあきらめた。「どこに隠せばいいのか、もう分からない。陸にも海にも人間の手の届かない所などないのではないか」

少し考えてから、ブラフマーはひらめいた。「そうだ、人間のまさに中心部、人間自身の内側の奥深くに隠せばいいのだ。そこを探そうなどと考える人間はほとんどいないだろうから」

神々は「そこなら完璧だ」と賛成し、神性は人間自身の中に隠された。それ以降、人間は自身の中に既にある神性を求めて、地を掘り、海に潜り、山に登り、宇宙に出て探索し続けている。

今月の思想

「全ての者に愛を降り注ぎ、少数の限られた者にだけ信頼を置き、誰に対しても悪をなしてはならぬ」

…ウィリアム・シェークスピア

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp